



小学何年生のときであったか...

教室の位置からして二年生の時ではないかと感じるのだが。

一年間の最後の給食の日、なにやら白いパンが机の上に配られた。

いつもは長いコッペパンに決まっているから、私はびっくりした。

「食パン」という名前さえ知らなかった。

パンにぬるジャムもそばに置かれていた。

あとの献立は覚えていないが、いつもとふんいきが違って、

フルーツポンチみたいなものもあった気がする。

「いただきます」のあとさっそく食べた四角いパン。

まっ白で、フワフワで、やわらかく、夢のような気分。なんておいしいパンなのだろう。

その後、六年生卒業までの給食で、あいかわらずいつもコッペパンだったが、

その間で食パンの時間が再びやってきたのかどうかはまったく記憶がない。

私の心には、最初の四角いパンの時だけが鮮明に残っている。

そして月日は過ぎ、十八歳の時。

ある日私が勤めていた小売店で、昼食前頃、
なにやらこおばしい、いいにおいがプーンとしてきたのだ。
そちらに目を向けると店主の息子である彼が、トースターで食パンを焼いていた。
もっともその時は食パンということもよく分かっていなかった。

しばらくして、ポンと二枚とびだしてきた、こげめのついた四角いものをみて、
あ、食パンを焼いたのだ、と分かったのだ。
彼はそれをパクパクと何もつけずに食べはじめた。

なんておいしそうに食べてるのだろう。

食パンをトースターで焼くのを見たのは、それが初めてだった。
焼けた食パンを見たのも初めてかと思ったが、考えてみたら
高校を卒業したすぐ後くらいに、トーストなるものを一度食べたことがあった。

ある知り合いの方の部屋に泊らせてもらった時、朝食にトーストを
出してくださったのだ。でも、この時は焼くところは見なかった。
そして、味も残念ながら覚えていない。

つまり、結婚するまで食パンを実家では食べたことがないと思う。

記憶にない。母が食パンを買ってきたことはない。

私も買わなかったし、店でも見かけなかったような気がする。

(パンコーナーはほとんど見なかった)

しかし、彼が食べていたということは、近くの店に売っていたのであろう。

そして、結婚して晴れて 自分で食パンを買い、トースターで焼いた。

生で食べても おいしい食パン。

トースターで焼いて もおいしい食パン。

食パンの記憶はいつまでも心に残る。 何十年後の今も…。